【①祈る皇女斎王のみやこ　斎宮】　課題ー方針ー措置ー進捗一覧表

◎：達成　〇：着実に取組み中　△：未達成　×：未着手　―：後半期の取組み

調査・研究・保存　／　文化財・文化遺産を守る

課題	方針	措置	事業名	事業概要	取組主体	財源	実施年 1年目～（R3～5）	実施年 4年目～（R6・7）	実施年 6年目～（R8～12）	達成状況	現状	課題・ハードル	新たな取組みなど
史跡斎宮跡の継続した調査研究と共有が必要	**地域住民の協力を得た継続事業の取組**	**調査研究と共有**	**史跡斎宮跡の調査研究**	継続した考古学、文献史学的調査の実施	行政、住民、学術	国費、県費、町費	継続事業 →	→	→	〇	発掘調査や学術研究が継続的に進められている	斎宮跡保存活用計画に基づく調査の継続、対象の広がり	斎宮跡保存活用計画で新たに位置づけられた副次的価値についても調査・研究を進めていく
			学術的な調査研究の共有	史跡斎宮跡の既往調査や研究成果の報告書刊行	行政、学術	国費、県費、町費	継続事業 →	→	→	〇	定期的に刊行がなされている		
			一般に向けた調査研究の共有	史跡斎宮跡や日本遺産の調査研究情報を、広報めいわや、さいくうあと通信で共有	行政	町費	継続事業 →	→	→	〇	講演会の動画公開など様々な媒体でを通じて価値の共有が充実しつつある		
『史跡斎宮跡保存管理計画』に基づいた保存がなされているが、現状にそぐわない	**継続した保存事業と『史跡斎宮跡保存管理計画』改定への取組**	**保存**	**史跡保存のための土地公有化**	史跡斎宮跡の土地公有化の実施	行政、所有者、住民	国費、県費、町費	継続事業 →	→	→	〇	公有化対象面積の80%以上の公有化が図られてきている		
			保存活用計画の策定	史跡斎宮跡の保存活用計画策定の取組	行政、所有者。住民	国費、県費、町費	→	→	―	◎	R7で達成	斎宮跡保存活用計画に基づく措置の実施	策定した計画に基づいて取組み進めるとともに、新たに位置づけられた斎宮跡の副次的価値について指定に向けて取組んでいく
地域社会全体での防災・防犯意識が十分でない	**防災・防犯訓練の継続実施と住民参加の取組**	**防犯・防災**	**復元建物の防犯・防災活動の実施**	復元建物さいくう平安の杜の防災・防犯訓練の実施	行政、住民	国費、県費、町費	継続事業 →	→	→	△	消防とも連携し定期的に訓練を実施してきているが、防災対策の見直しまでは未着手である	明和町地域防災計画や世界遺産・国宝等における防火対策などとの整合性を図っていく必要がある	指定管理者とも連携し、防災・防犯対策の充実を図る
構成文化財を活かした学校教育が確立していない	**教育委員会や学校との連携が必要**	**次代の担い手の育成と継承**	**学校での日本遺産教育**	発掘調査や復元建物、日本遺産を活用した授業を企画し、学校教育との連携を実施。	学校、行政	国費、町費	継続事業 →	→	→	〇	郷土学習用副読本やデジタル補助教材が製作され、R６から試行が始まっている		郷土学習における地元住民との出会いの機会創出や多様な外部人材の発掘と学校間の人材情報や授業方法の共有について教育委員会と連携して充実を目指す
史跡内の景観や公共物の不統一	**統一した景観基準が必要**	**歴史的景観の保護**	**風景条例（仮）の整備**	史跡斎宮跡内の歴史的景観を保護するための条例策定への取組	行政、住民	国費、県費、町費	→	→	→	△	庁内において取組みを検討しているが、策定にはいたっていない	担当課と連携し町全体で策定していく必要がある	継続して取組む

活用　／　文化財・文化遺産を活用する

課題	方針	措置	事業名	事業概要	取組主体	財源	実施年 1年目～（R3～5）	実施年 4年目～（R6・7）	実施年 6年目～（R8～12）	達成状況	現状	課題・ハードル	新たな取組みなど
構成文化財の継続した情報発信が必要	**事業を継続しつつ、多角的な取組が必要**	**価値と魅力の情報発信**	**現地での構成文化財公開**	史跡斎宮跡の発掘調査現場公開や、展示、日本遺産の見学会の実施	行政、民間、住民	国費、県費、町費	継続事業 →	→	→	〇	発掘調査の現地説明会の開催や日本遺産の構成文化財に対する説明などが実施できている		
			外部での構成文化財公開	外部での日本遺産の講演会、シンポジウムの実施、公開イベントの実施	行政、民間、住民	国費、県費、町費	継続事業 →	→	→	〇	＜日本遺産の日＞出展、阪急交通社のイベント等実施		
			斎宮跡関連地域との連携強化	古代官衙や斎王群行路の沿線市町との連携事業企画	行政、民間、住民	国費、町費	継続事業 →	→	→	〇	四日市市久留倍官衙遺跡との連携協定に基づき相互パネル展を実施できている		

既存ガイド、複合ガイドの不足	**既存ガイドの強化、複合ガイドの育成**	**人材の育成**	**ガイドの育成・体制強化**	構成文化財、ツーリズム、グルメ、アクティビティなどの複合ガイド育成	民間、住民	国費、町費	→	→	→	○	斎宮ガイドボランティアの継続的な活動に加え、有料ガイドの検討などが進められている。	史跡斎宮跡以外の日本遺産構成文化財などのエリアに関するガイドについて、人材不足などにより実施できていない	ガイドエリアの充実に向けて、民間事業者との連携や学校教育などを通じて各地域での人材の掘り起こしなどを図っていく
滞在時間の短さや観光商品の少なさ	**建造物の活用や観光商品の企画化による滞在型観光へのシフト**	**観光振興の推進**	**構成文化財を活かした観光商品の開発**	構成文化財に因んだ土産物や商品、ツアー商品の開発	民間、行政	国費、町費	継続事業 →	→	→	○	斎麺、卜定クッキー、塩飴、日本遺産缶バッチなどが開発されている。明和観光商社によるガストロノミーツアーやサイクリングツアー、タラソテラピーウォークなどの商品が開発されている。	商品化が着実に進んでいるが、滞在時間の増加や観光消費額の増加に結び付けていく必要がある	民間事業者や地域住民のアイデアを取り入れ引き続き商品化のバリエーションを増やし、滞在時間の増加や消費額の増加に結び付けていく
			構成文化財周辺の歴史的建造物の活用	構成文化財周辺の民家を修復して観光施設として活用	民間、所有者	国費、町費	→	→	→	○	みのりや、斎宮スタジオ、澄野家、月華など古民家を活用した店舗が増えつつある		
			史跡公園の活用やユニークベニュー	斎王まつりや観月会の実施と、新たな活用方法の検討	民間、行政、住民	国費、県費、町費	継続事業 →	→	→	○	従来のイベントに加え、満月参りや竹神社鎮守の森、歌舞伎や薪能、マルシェなど多様な主体による多様なイベントが増加している	今後の活用におけるルール作りやエリア分けなどが必要、副次的価値である農地的景観や植栽計画の検討が必要	活用事例やトライアルサウディングなどを通じて、住民の理解を得ながらルール作りや運用方法の検討を進める

環境整備		**文化財・文化遺産の環境を整備する**								**達成状況**	**現状**	**課題・ハードル**	**新たな取組みなど**
課題	**方針**	**措置**	**事業名**	**事業概要**	**取組主体**	**財源**	**実施年**						
							1年目～（R3～5）	**4年目～（R6・7）**	**6年目～（R8～12）**				
継続した来訪者の見学環境改善が必要	**文化財・文化遺産の見学環境の見直し**	**来訪者対策**	**史跡斎宮跡の公園環境整備**	史跡斎宮跡祓戸広場、南裏広場、東加座広場、社の森広場等の環境整備	行政、住民	国費、町費	継続事業 →	→	→	△	歴まち計画に基づき進めている	予算・調整	R8以降も歴まちによる整備を継続していく
			構成文化財の公園環境整備	日本遺産佐々夫江行宮跡の環境整備	行政、所有者、住民	国費、町費		→	→	△	実施に向けて取組み中	予算・調整	歴まち計画の中で整備を検討していく
外国人来訪者の対策ができていない	**トイレの洋式化や支払いキャッシュレス化の取組**		**史跡斎宮跡のトイレの洋式化**	インバウンド対策のため、史跡公園斎宮跡のトイレ洋式化。	行政、民間	国費、町費	→	→		◎	必要と判断した箇所について洋式化がなされた		
			構成文化財関連施設のキャッシュレス化	インバウンド対策のため、関連施設の支払いのキャッシュレス化	行政、民間	国費、町費	→	→		◎	史跡内の公共施設においてキャッシュレス化が図られた		
誘導案内や移動手段が少ない	**誘導案内看板の設置や移動手段の検討**	**周遊性向上**	**誘導案内の整備**	主要幹線道路や駅からの案内看板等の設置	行政、民間	国費、町費		→	→	△	町外も含め、三重県とも連携し誘導板の充実がなされているが、老朽化による更新などへの対応が必要。	予算・調整	補助事業等の活用も検討しながら引き続き取組んでいく
			移動手段の充実	構成文化財の主要施設にレンタサイクルポートを整備。新たな移動手段検討やMaaSの検討	行政、民間	国費、町費		→	→	○	史跡斎宮跡でのモーグルの運用、レンタサイクルポートなどが設置されつつある	交通手段の確保がなされつつあるが、運用面でのルール作りや安全性の確保などが必要である	安全で快適な２次交通が定着するよう運用ルールなどの環境整備を関係機関と連携して進める